2022 年度　第１回教育課程連携協議会議事録

日　時：2022年 10 月 26 日（水）14：00～15：00
形　式：（対面・オンライン併用）会議

総委員：９名
（岡内祐一郎、平田透、相良多喜子、後藤克治、赤塚保正、東俊昭、本昌康、奥野善徳、木下孝治）
出席者：７名　　欠席者：１名
（内　訳）
本人出席　：５名（岡内祐一郎、平田透、相良多喜子、本昌康、奥野善徳、東俊昭（オンライン））
代理出席　：２名（木下孝治　代理：越野　敦司、後藤克治　代理：舟山忠彦（オンライン））
書面表決者：０名
欠　席　　：１名（赤塚保正）
陪　席　　：事務局
議　長　　：平田 透（学部長）

開　会
１　学長挨拶
２　委員の紹介
３　昨年度の報告
・昨年度より交代のあった委員（東委員、奥野委員）について紹介を行った。
・昨年度議事録を全委員に配信し、議事を確認いただく旨報告があった。

４　審議事項
（１）臨地実習Ⅰにおける実施報告
※2022 年度臨地実習 概要報告
・議長より、今年度より開始した臨地実習に関し、実施状況および今後の改善事項について報告があった。本学の実習説明が十分でなかった点、実習が受入できなかった企業があった事やコロナ禍で実施できなかった点などを説明し、企業側の受入に関して委員に意見を求めた。

【臨地実習の受入について】

発言者	内　　容
本委員	実習生について、現場からは「優秀な人材で、大変助かっている」との声を聞いている。フォーラス店等は若い店長であり、こちらとしては指導が足りなかったのではとの心配があった。 実習生受入が現場に負担・迷惑だったということはなく、時間当たり売上も問題なかったとの報告を受けている。 若い人材を育てるという風土があり、人を育てるのは当たり前。学生がどんな風に育つか楽しみである。
舟山委員	現場で打ち合わせをしていたが、リーガルチェック時に協定・契約ができていなかった。期日も迫り、安易に受け入れできなかったのが正直なところで申し訳なかった。次回以降協力できれば。 最終目的が経営マネジャーになるので、アルバイト扱いではいけない。次世代を考えればウエルカムである。 現場を実体験しつつ、店長として経営の部分も伝えるには、事前・事後で時間をどのように使うか（店舗管理など）、打ち合わせの時間が不足していた。

・議長より補足として、受入を依頼するにあたり、企業とのコミュニケーション不足があった点や認可申請時のシラバスが現実的でない部分についても説明があった。

【企業側のメリットについて】

発言者	内　　容
越野委員	経営的メリットを求めて協力するということはまずない。そういう人材教育に携わることが企業の使命では。食の専門職大学は今までなかった部分であり、協力できればと思っている。 （実習期間が長いため負担になるかという質問に対し） 育成しながら事業を行っているので違和感はない。環境面・契約面を整備してもらえれば問題はない。
奥野委員	法整備はきっちりとしなければならない。 受け入れる側はメリットを感じており、教育プログラムが正しいのか検証できる。（マニュアル整備、指導側の成長） 受け入れはプラスだと思うので、すでに名古屋から育成に長けた幹部候補をフォーラス店に配置している。できれば卒業時に就職してもらえればメリットがあると思う。
東委員	行政の立場からは、包括連携の観点から将来に向かって優秀な人材を育てて欲しい。白山市を拠点に活躍する人材、食のめぐみの豊かさを全国に PR する人材を輩出してほしい。前に進めるために協議の場を設けたい。

・各委員の意見を踏まえ、議長から臨地実習Ⅰは店舗の運営を理解することが目的であり、次回に向けて体制を整えることが説明された。また学生から報告はまとめている最中である。
・岡内学長からは委員からの前向きな意見に感謝が述べられ、次回に向け学内外で詳細な打ち合わせをし、両者にメリットがあるようにしたいとの意見が述べられた。
・相良委員からは教育プログラムのマニュアル化も学内で進めること、ハチバンでの配膳ロボットなど、企業の取り組みに学生も刺激を受けられたらとの意見があった。

（2）今後の実施体制について

【今後の実施体制について】

発言者	内　　容
本委員	学生のレポート（感想）をもらって、担当者に渡したい。受入側としての教育をしていきたい。 ⇒議長より、店長に実習日誌のチェックをしていただいた旨説明があり、報告として提出するとの回答があった。 また企業理念を調べることで経営・経営理念の理解にもつながる。
舟山委員	本委員と同意見。 今回安藤教員に色々動いてもらった。文面を拝見するとカリキュラムが高度に思えたが、概要を理解できた。その点など今後も担当者とやり取りを行いたい。
越野委員	（受け入れるとしたら）受入は問題ない。レポートを見たいという意見が多いだろう。現場以外にも経営者と交わる場があればなお良いのでは。 ⇒議長より、臨地実習Ⅲではそういった立場とも関わることが出来るよう計画しているが、その点も指導してほしいとの説明があった。
奥野委員	企業ごとに志向しているやり方・理念・価値観が違う。 店長業務も企業ごとに定義が異なるので、それを学生に示し、基準化・見える化があると良い。目線合わせをどう行うか。 チェーン店の店長、独立するときの考え方を分かっておく必要がある。 ただ、学生のニーズがある。最先端を学びたいのか、オプションとして見えるようにしたほうがいいのでは。店長もひとくくりではない。効率重視の理念がある企業の店長、お客様を喜ばせる企業の店長は違う。まだ学生があまり分かっていないのでは。 ⇒議長より、学生の事前指導を強化する旨回答があった。

【担当者の窓口について】

発言者	内　　容
本委員	学校側の体制の問題。それぞれに良い実習先に行き、学生の将来（就職先）に良い影響が与えられるかどうか。
奥野委員	衛生についてどうなっているか。 ⇒健康診断、検便実施・学生保険について回答した。 それくらいで良い。労災についても、何が起こるか分からないので、そこはしっかりしてほしい。

・議長より各委員の意見を踏まえ、これ以降契約・協定についてはしっかり固める旨報告があった。企業の事情を考慮して負担にならないように、学生指導は学内で指導強化を行う。また臨地実習は本学のコア科目になるので、意見があれば事後でも寄せて欲しいとの説明があった。

6.閉会

・岡内学長より、閉会に当たり以下の意見が述べられた。

・委員からの意見は謙虚に受け止め、学生が実習に行って良かった、学んだと思えるように指導を行う。学生の感想を実習先にも報告することも行う。事前に企業分析を行うため会社概要などの資料をもらえればありがたい。

・白山市も述べられていたように、大学コンソーシアムでも県内定着は議論になっている。学生ができるだけ卒業後地域で就職し、地域発展に貢献することが大学の務めでもある。地域の企業との良い関係・理解を持つことが、地域で仕事をしようという気持ちにつながるのでは。その点を含めて臨地実習への理解・大学事業への協力をお願いしたい。

【資料】

・臨地実習の流れ

・シラバス・・・臨地実習Ⅰ、臨地実習Ⅱ、臨地実習Ⅲ

・2022 年度臨地実習 概要報告